

中心市街地の変化が歩行者通行量に及ぼす影響の分析

西堀 泰英¹, 巖 先鏞²

¹公益財団法人豊田都市交通研究所, ²東京大学 空間情報科学研究センター

連絡先: <nishihori@ttri.or.jp> Web: <http://ttri.or.jp/>

- (1) **動機:** 中心市街地活性化の評価指標には、内閣府 地方創生推進事務局の中心市街地基本計画最終フォローアップに関する報告から調べると、評価指標として歩行者通行量を用いている事例が最も多い。歩行者通行量は人々の移動を捉えたものであり、中心市街地での購買や飲食、休息などの活動そのものを捉えたものではない。歩行者通行量と中心市街地で行われる人々の活動と関連すると考えられる様々な事業活動との関係を知ることが重要である。
- (2) **方法:** 中心市街地の地区別の従業者数などの事業活動指標と歩行者通行量の長期的な変化に着目し、中心市街地の変化が歩行者通行量に及ぼす影響を捉える。
- (3) **意義:** 歩行者通行量を用いた評価を行う際の留意点を提示するとともに、中心市街地のエリア別の事業活動の変化を踏まえた対策の検討に活用できると期待される。
- (4) **特徴:** 中心市街地を経済センサス基礎調査の調査区を用いて平均 14ha のゾーンに区切り、事業所数、従業者数、建物用途別面積、テレポイントデータを用いて、ゾーン別の事業活動の状況とその長期的な変化を把握する。さらに、中心市街地内で面的に観測された歩行者通行量の変化と事業活動の変化を分析する。分析対象期間は歩行者通行量データが存在する 2009 年からの 10 年間とする。
- (5) **結果:** 現在、ゾーン別の事業活動の変化を分析した結果、例えば電話番号件数でみた場合、図 1～3 に示すようにゾーンによって変化の傾向が異なり、産業によって大きく傾向が異なることが確認された。本稿では電話番号件数の結果を示すにとどめるが、事業所数や従業者数でも同様の傾向にある。引き続き歩行者通行量データとの分析を行い、発表時には結果を報告したい。

(6) 使用したデータ:

- ・「事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査 (1906, 2001, 2006, 2009, 2014)」シンフォニカ
- ・「座標付き電話帳 DB テレポイント (2011～2019 年)」ゼンリン
- ・「都市計画基礎調査 建物用途別面積 (2012, 2017 年)」愛知県都市計画課
- ・「歩行者通行量データ (2009～2019 年)」豊田市

(7) 使用したソフトウェア: QGIS

- (8) **謝辞:** 本研究は愛知県から都市計画基礎調査データ、豊田市から歩行者通行量データの提供を受けた。また、本研究は東大 CSIS 共同研究 No.972 の一部として実施し、事業所企業統計調査データ、経済センサス基礎調査データ、テレポイントデータ、Zmap TOWN II データの提供を受けた。ここに記して謝意を表したい。

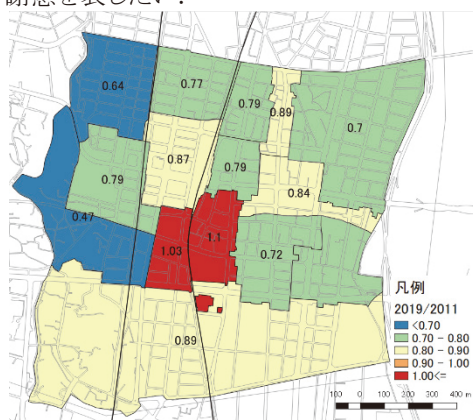


図 1: 全産業の電話番号件数の変化 (2019/2011)

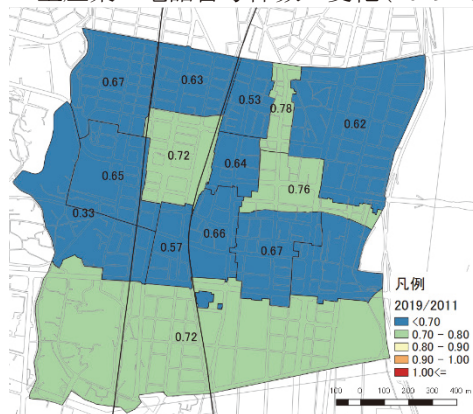


図 2: 小売業の電話番号件数の変化 (2019/2011)

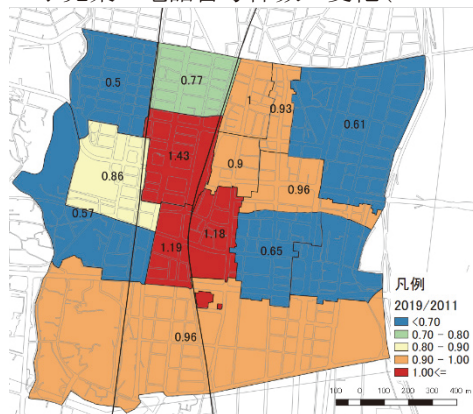


図 3: 飲食業の電話番号件数の変化 (2019/2011)